



日本赤十字社

京都第一赤十字病院

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

絆

泉山老
俊朝

京都第一赤十字病院

き ず な

人道と奉仕の赤十字精神に基づき、
患者さまにとって安心できる
適切な医療を行ないます。

新春号

2016年1月発行

vol.

59

Contents

看護フォーラム開催報告	2,3
がんワークショップ開催報告	4,5
マンモグラフィ装置を更新しました	6
母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査 (NIPT) を始めました	7
お知らせ	

明けましておめでとうございます。エルニーニョ現象のせいで暖冬のはずでしたが、12月早々から、北海道、東北地方は大雪に見舞われました。また去年はパリにおける乱射事件を筆頭に世界中でテロが頻発した年でもありました。我が国とて安全保障と言いながら、海外派兵が出来るように法改正した現状を考えると、テロの標的になるのを避けるのは難しいと思います。

殺伐とした中で、明るい話題は大村智先生、梶田隆章先生両名のノーベル賞授賞につきますのではないのでしょうか。殊に大村先生が思想信条に関係なく、多くのアフリカの子供達を救って来たと言う事実こそ、日本が将来取るべき姿だと思います。

さて今年は診療報酬の改定年度に当たります。医療費が40兆円を超え、国の借金を後世に残すわけにはいきませんので、最も規模の大きい厚生省関連の歳出を

減らそうとする発想は解らないわけではありませんが、無駄な出費はもっと他にあるはずですよ。やっと一息ついた医療制度崩壊を助長する診療報酬の引き下げを、形の上では本体部分を減額せず、若干のプレーキをかけようとしている様子が伺えますが、経済財政諮問会議主導である限り、楽観できるものではありません。

本院は足かけ20年に及んだ全面改築工事が、昨年11月末の駐車場の完成をもって全て終了致しました。立地条件を考え、厳しい景観条例にもかかわらず新病院として生まれ変わったのは、ひとえに皆様方のご理解とご協力の賜物と、紙面を借り御礼申し上げます。

新年を迎え皆様方のご多幸を祈念すると共に、変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い致します。

京都第一赤十字病院
院長

依田 建吾

看護フォーラム日記

その人らしく地域で
生きるために
病院と地域をつなぐ
看護の実現に向けて



12月5日の土曜日、当院多目的ホールで看護フォーラムを開催しました。

師走の忙しい時期にもかかわらず、117名(院外49名、院内68名)の皆様に参加していただきました。テーマには、地域の看護・介護職の方々との連携を更にすすめるとともに、当院のリソースを活用して地域への貢献を図りたいという思いを込めました。

研修会と懇親会という二部構成で、研修会は講演・事例報告・認定看護師活動報告を企画しました。講演会では、老人看護専門看護師と摂食嚥下障害看護認定看護師による高齢者ケアに必要な基



本的な知識、看護者の視点を持つことの重要性を再認識することができました。懇親会は終始和やかな雰囲気の中、他施設の方々との交流を通して、連携を強化するための意見交換を行い、とても充実した時間を持つことができました。

地域包括ケアのめざすイメージを「時々入院、ほぼ在宅」と表現することがありますが、医療は急性期病院だけで行うものではありません。今回のような機会をきっかけに顔の見える双方向の連携をすすめ、安心安全な地域での暮らしをサポートしていきたいと思います。

専門・認定看護師活動報告 ①

がん看護専門看護師 田中 結美



がん看護専門看護師は、がん患者の身体的・精神的な苦痛を理解し、患者やその家族に対してQOLの視点に立った質の高い看護を提供することを使命としています。

がんの告知の場面への同席、がん患者カウンセリング、がん相談、緩和ケアチームの活動を通して、がんと診断された時から治療期、終末期まで、患者さんとそのご家族の心身のつらさをやわらげ、より豊かな人生を送るよう支えることを目指しています。

専門性の高い看護師の活動は、がんカウンセリング料(現がん患者指導管理料)として診療報酬でも評価されるようになりました。当院では、緩和ケアの研修を修了した医師と専門・認定看護師が協働し、患者さんが十分に納得して治療選択ができるように積極的に取り組んでいます。

また、高齢者や同時に併存疾患を抱えたがん患者さんに対して、今年度から多職種で周術期管理チームの活動を開始しました。

今後も、患者さん・ご家族の多様なニーズに応えるために、より質の高いチーム医療が提供できるよう努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

専門・認定看護師活動報告 ②

乳がん看護認定看護師 山本 沙織

乳がんはがんに罹患したことだけでなく、乳房切除や治療に伴う脱毛など女性性に大きく影響する疾患です。2013年からインプラントによる乳房再建術が保険適応となり再建術を選択する方も少しずつ増えてきています。

患者さんにとっては喜ばしいことですが、その反面治療選択は複雑になっています。

乳がんの好発年齢は40代～50代で、女性のライフサイクルの中でも重要な役割を果たしている方が多い年代です。

乳がん看護認定看護師の主な役割として、診断(病名告知)後の心理的サポート、治療選択(意思決定)のサポート、さまざまな治療に伴う看護、ボディイメージ変容のサポート、リンパ浮腫予防指導などがあります。がんと診断された時から共に治療選択について考え、子どもを持つ方には、子

どもへの伝え方をお話ししたりして、ご本人だけでなく家族で病気を乗り越えられるよう支援しています。また近年は働く女性も多く、その方が病気と共存し治療が継続できるよう寄り添い支援しています。

これからも患者さんにより近い存在でありたいと考えています。



専門・認定看護師活動報告 ③

認知症看護認定看護師 高瀬 あゆみ

急性期病院では、入院に至った疾患の治療や処置に主眼が置かれがちです。それを困難にする認知症は、治療の表舞台にこそなかなか立ちませんが、スムーズに治療を受けていただきたいと思う周囲の人を悩ませてしまうことが少なくありません。そして認知症高齢者自身も、入院という大きな環境変化に対応しようと必死でがんばっているのだと

感じます。認知症高齢者ができるだけ混乱することなく穏やかに入院生活を送っていただきたい、また、スタッフが認知症患者への対応に抱えるジレンマを少しでも軽減できないかという思いで、2015年7月に認知症看護認定



看護師となりました。

現在の活動は、毎週火曜日に行っている院内デイケア(呼称:スマイルカフェ)に、老人看護専門看護師、認知症サポートナースとともに取り組んでいます。病棟ではあまりゆっくり聴くことができなかった昔語りや参加者同士の世間話、レクリエーションに取り組む姿やお茶菓子を手に「おいしい」と微笑む姿に、人生には人との関わりや楽しみが必要なのだと実感します。また、他病棟からの依頼を受け勉強会を開催しております。

今後は、気軽にご相談いただけるように院内での認知症看護認定看護師の認知度を高め、各部署のスタッフと共に認知症ケアについて考える場を増やしていきたいと考えております。また、近隣の医療機関や施設とも連携し、地域を支える一人として貢献していきたいと思っています。

第15回京都第一日赤がん診療連携ワークショップ

■セッション 1

session.1

がんの早期診断にむけて

座長／緩和ケア内科部長 上田 和茂

12月10日に15回目となる京都第一日赤がん診療連携ワークショップが行われました。これはがん診療連携拠点病院の責務として定期的に開催しているもので、連携いただいている医療機関および院内から合わせて135名のご参加をいただきました。多数の方々にご参加いただき本当にありがとうございました。

今回の主題は「がんを見逃さないための診療のこつ」で、セッション1では「がんの早期診断にむけて」をテーマに本院のがん診療の中核を担う4名の医師が講演しました。

内山人二血液内科部長は慢性骨髄性白血病、真性多血症、本態性血小板増多症を取り上げ、これらの疾患はいずれも原因遺伝子が解明され、治療に応用されていると解説しました。その上で血液疾患にあっては血球増多の異常があれば、遺伝子レベルでの検索を行うことで、血液がんの早期発見に繋がれると述べました。

大久保智治産婦人科部長は子宮頸がん、体がん、卵巣がんを取り上げて講演しました。子宮頸がんは検診が早期発見に有用だが、受診率が低いことが問題であり、またワクチンが予防には有効であると述べました。一方、子宮体がん、卵巣がんについては検診が確立しておらず、現時点では超音波検査の活用が早期発見には重要と述べました。さらに治療についてはより低侵襲で機能温存が可能な方法の確立が望まれると締めくくりました。

塩津伸介化学療法部副部長（呼吸器内科）は検診での肺がんの早期発見に

は低線量CT が有用で、死亡率の低下も報告されていると述べました。また通院患者に発症する肺がんの拾い上げには喫煙などのリスクファクターを考慮することに加え、咳、胸痛、肺炎などの非特異的な症状に注目することが重要であると解説しました。

佐藤秀樹消化器内科副部長（胆・膵内視鏡治療部門長）は、膵がんが近年増加傾向にあり、現在でも予後が不良であることを指摘し、家族歴、糖尿病、飲酒、喫煙をリスクファクターに挙げ、該当する場合は年2回は腫瘍マーカーおよび腹部超音波のチェックが望ましく、超音波で膵臓が十分に描出できない場合はCTやMRを積極的に施行することが早期の発見に繋がると述べました。

日本人の2人に一人ががんに罹患し、3人に一人ががんで死亡するとされる一方、がん患者の5年生存率が60%を超える時代になってきているだけにがんの早期診断の重要性はますます高まっており、日常の診療においても有用な内容を含んだ講演となりました。

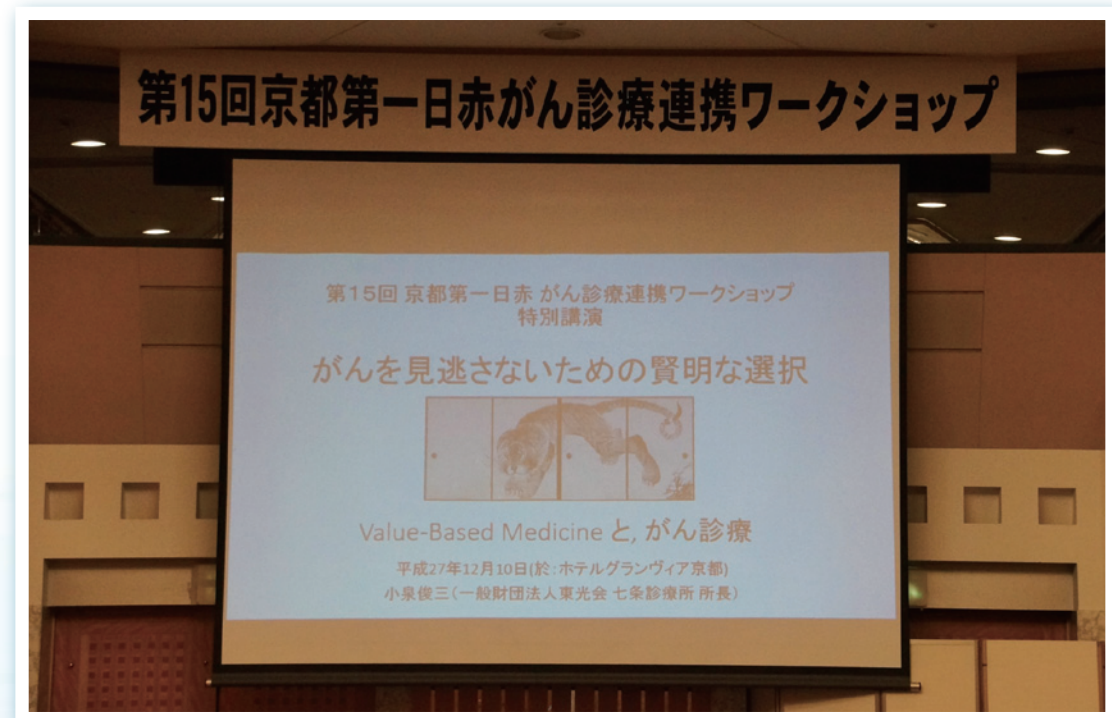


■セッション 2

session.2

がんを見逃さないための賢明な選択

座長／消化器外科部長（院長補佐） 塩飽 保博



12月10日に「がんを見逃さないための診療のこつ」というテーマで第15回京都第一日赤がん診療連携ワークショップが行われました。当日は連携病院・医院の先生方も含め、多数の方に参加していただきました。紙面を借りて御礼申し上げます。特別講演として、佐賀大学名誉教授、財団法人東光会七条診療所所長の小泉俊三先生に「がんを見逃さないための賢明な選択」をご講演していただきましたので、簡単ではありますが紹介させていただきます。

京都府の新規がん患者は約2万人で府内の医師数は約7,800人にて、通常考えるとプライマリケア医ががん患者に遭遇するのは、年に2～3人と少ない数になります。そのような数少ない症例に対し、いかにすればがんの見逃しを本当に避けることができるのかということですが、まずは医師自身が経験知に基づいた診断の合理的な推論を行い、EBMなどを参考にして自分自身

の診療ガイドラインを持つことが必要で、診療ストラテジーとしては4つのPを忘れないことが必要です。4つのPとは、Prevalence（有病率）、Presentation（症状と徴候）、Pathophysiology（病態生理）、Prognosis（予後）で、それらを踏まえたうえで、医療コミュニケーション論の観点からがんについての対話が必要で、患者の声に耳を傾けることが大事であるとのことでした。最終的には、人が人を診るので、お互いよく話をして患者さんにがんという疾患を意識してもらうことが重要だということでした。非常に理路整然としたお話でしたので、私たちも今後の診療に活かしていきたいと思います。最後に日常の診療の忙しい中、沢山のスライドをご用意いただきご講演いただいた小泉先生に御礼申し上げます。次回は平成28年6月9日に第16回を予定しておりますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

マンモグラフィー装置を 新機種に更新しました

乳腺外科／副部長 小谷 達也

日本人女性の乳癌罹患率は増加の一途をたどっているのは確実で、患者数の増加にともない乳癌診療はどんどん多忙になってきています。芸能人の乳癌がワイドショーで取り上げられると外来がパンク寸前の事態に陥ることさえあります。今回導入されたFUJIFILMメディカルのAMULET Innovality(アミュレット〔英〕:お守り、魔除けの意味)は当院の乳癌診療に大きなインパクトをもたらしてくれそうです。

(写真1. AMULETの写真)

乳房X線撮影装置は、1966年に世界で初めて乳房撮影用X線管が発表されたのに端を発し、その後の進化で、高感度、高解像度な質の高いアナログマンモグラフィー画像が得られるようになって、世界中で広くマンモグラフィー検診が実施されるようになりました。このマンモフィルム、(読影試験を受けたことのある諸先生方はよくご存じかと思いますが、)読影する際には、暗い部屋で、虫眼鏡を片手に淡い石灰化などを見つけるという苦労がありました。大量のフィルムの保存も大変です。その後、フィルムレス化の波が押し寄せてCRによるデジタル画像が主流になり、乳房撮影もデジタルマンモグラフィーに移行してモニターで診断するようになりました。

今回(2015年9月から)導入したAMULETはCRから更に進化したフラットパネルディテクター(FPD:平面検出器)を搭載し、FPDとしては世界最高水準の50 μ m画素サイズを実現しています。乳房を通り抜けたX線信号をFPDによって直接電気信号に変換するので、撮影後、すぐに画像



(写真1. AMULET)

が確認でき、従来の様なカセットの入れ替え時間もなく検査時間の短縮につながり、撮影がスムーズに流れます。難しい話は抜きにすると、技術革新の塊のようなこの装置は、低被爆で(患者さんが安心)、高画質(医者も安心)、撮影の流れもよくなって(撮影技師も安心)と三拍子揃った装置と言えます。

最後に乳房健康のAMULET「お守り」となって日々活動しているスタッフを紹介させていただきます。

今後とも京都第一赤十字病院、乳腺外来をよろしく願いいたします。

【出典】

デジタルマンモグラフィー実践テキスト、オーム社、森山紀之、内山菜智子
デジタルマンモグラフィーの現状 日本赤十字放射線技師会電子会誌、4,78-8,2013 嵯峨綾子
デジタルマンモグラフィーの現状とその画像処理 日本放射線技術学会雑誌,60,3,362-367,2004 西出裕子

(写真2. 診療スタッフ、敬称略)

[放射線科読影医師] 越野幸子

[マンモグラフィー撮影担当放射線技師] 八木絢子、矢道知佳、高坂静佳、森田千瑛、堂屋 瞳

[乳腺外科医師] 李 哲柱、小谷達也、張 弘富、本田晶子

[がん看護認定看護師] 田中結美 [乳がん看護認定看護師] 山本沙織



母体血を用いた新しい出生前 遺伝学的検査(NIPT)を始めました

産婦人科／部長 大久保 智治

2015年12月より、京都府で初めて、NIPTと呼ばれる母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査を開始しました。NIPTとは、無侵襲的出生前遺伝学的検査=Noninvasive prenatal genetic testの略です。

NIPTは、母体血中存在する胎児由来のDNAを解析し、由来染色体や量の変化を調べることで、13・18・21番染色体数的変化の有無を調べる検査です。

母体血を採取するのみで、非常に高い陽性的中率・陰性的中率で胎児の21・13・18トリソミー

の有無を検出します。しかし診断は確実ではなく、診断確定のためには侵襲的検査(羊水検査や絨毛検査)が必要です。

当科は、高齢妊娠、染色体異常の既往妊娠、超音波での異常所見など様々な理由で出生前診断を考慮されるご夫婦に対し、出生前遺伝カウンセリングのための専門外来を開設しています。その中で、出生前診断の新しい選択肢としてNIPTを提供していきます。

詳しい情報はホームページに記載しています。ご興味ある方は是非ご覧ください。

お知らせ

Information

がん治療研究会 ～切れ目のない医療を考える～

【日時】平成28年2月4日(木) 18時30分～20時頃 【会場】京都第一赤十字病院 管理棟5階 多目的ホール

※詳細は、別紙をご参照ください。

第8回 京都第一赤十字病院 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会

【日時】平成28年2月27日(土)・28日(日) 9時～17時頃 【会場】京都第一赤十字病院 管理棟5階 多目的ホール

※詳細は、別紙をご参照ください。

第13回 東福寺消化器フォーラム

【日時】平成28年3月3日(木) 19時～

【会場】ホテルグランヴィア京都

【テーマ】増加する消化器癌への対策

※詳細は、別紙をご参照ください。

糖尿病腎症の研究会

【日時】平成28年3月12日(土) 18時～

【会場】御所西 京都平安ホテル

病診病連携講演会～Cardiovascular&Diabetes～

【日時】平成28年3月31日(木) 18時～

【会場】メルパルク京都 4階 研修室1

東福寺周産期カンファレンス

【日時】平成28年3月10日(木) 18時30分～

【会場】メルパルク京都

糖尿病治療を考える会 (伏見・南区の先生との連携の会)

【日時】平成28年3月17日(木) 19時～

【会場】新都ホテル

第15回 東山糖尿病医療連携懇話会

【日時】平成28年4月23日(土) 16時30分～

【会場】ANAクラウンプラザホテル

※詳細は、別紙をご参照ください。

連携室だより

巻末コラム

37

新年明けましておめでとうございます。申年の人は「超ポジティブで盛り上げ担当」、「頭の回転が速い」、「クセモノ」など言われています(ネット調べ)。私自身、申年でそれらに当てはまるかは…ご想像にお任せしますが、皆様のお役に立てるよう頑張ります。

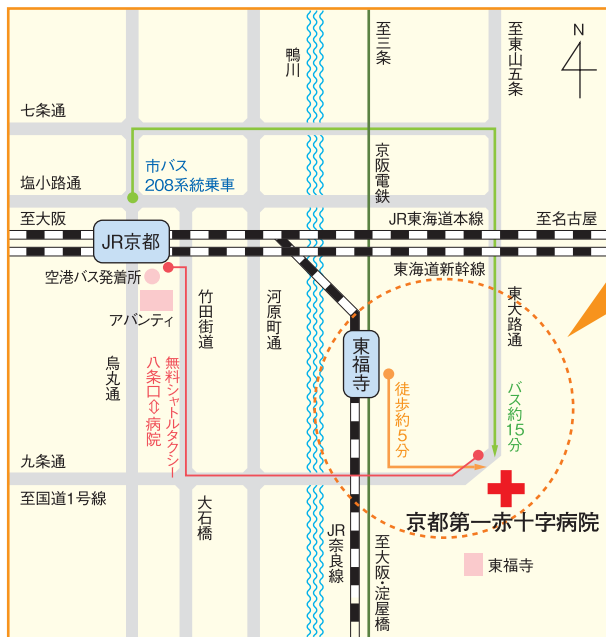
ところで、2016年はリオデジャネイロで夏季オリンピックが開催されます。7人制ラグビーなど新しい競技も追加され、一体どれだけのメダルを取れるか…など、スポーツ観戦の好きな私にとって大変楽しみな1年です。ただ、リオデジャネイロは日本の真裏ということもあり、昼夜が逆転してしまうことが残念でなりません。

しかし、楽しいことばかりではなく、診療報酬改定という我々にとって大きな変化があります。更に医療を圧迫することは間違いありません。翌年には消費税増税がそれに拍車をかけることになります。当院は高度な急性期医療を提供し続けるには皆様のご協力無しには成り立ちません。皆様には当院をますますご活用いただきますようお願い申し上げます。それにお応えできるよう努めてまいりますので、本年も京都第一赤十字病院をよろしくお願いいたします。

地域医療連携室

Access to Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hospital

当院へのアクセス



電車をご利用の場合

JR奈良線、京阪電鉄…「東福寺」駅下車、徒歩5分

バスをご利用の場合

市バス202、207、208系統「東福寺」バス停で下車

車をご利用の場合

【奈良、大阪方面から】… 京都南IC出口、国道1号線を北へ約2.5キロ京阪国道口を東(右折)へ、九条通りを約2.5キロ

【山科、大津方面から】… 国道1号線を西進、東山五条交差点を南(左折)へ、東大路通りを約2キロ

【京都駅付近から】… 竹田街道を南へ約500メートル、大石橋交差点を東(左折)へ九条通りを約500メートル

無料シャトルタクシー運行のご案内(JR京都駅八条口や病院(地下鉄九条駅経由))

	八条口発 病院行き	病院発 八条口行き
始発便	7:45	9:00
次発	8:10、以降30分間隔で運行	以降30分間隔で運行
最終便	16:10	16:00

※12:40八条口発の便は運行しておりません。 ※12:30病院発の便は運行しておりません。

※交通状況により時刻に遅れが生じる場合があります。
※運行は平日のみとなります。土・日・祝日等病院の休診日は運行いたしません。
※定員9名のため満員の場合は次の便をご利用ください。

京都第一赤十字病院

京都市東山区本町15-749 TEL.075-561-1121

地域医療連携室 【直通】TEL.075-533-1280

FAX.075-533-1282